

2007/10/24

第4回つみきの会会員アンケート調査

NPO法人つみきの会代表 藤坂龍司

「ABA家庭療育に関するアンケート調査」

調査期間：2007年9月6日～同年10月9日

対象：2006年4月～8月に入会した正会員（海外会員を除く）120名（入会后1年～1年半経過）

うち2007年9月現在も会員である者（継続会員）84名、すでに退会している者（退会者）36名
退会率30%

方法：対象者全員にアンケート用紙を郵送し、記入の上、同封の返信用封筒で返送してもらうよう依頼した。匿名とし、アンケート用紙だけでなく、返信用封筒の裏にも、住所氏名を記載しないよう求めた。

回収数：継続会員62名（73.8%）、退会者13名（36.1%）、計75名（62.5%）

ほぼ2年ごとに実施しているつみきの会会員アンケート調査は、今回で4回目を迎えました。

今回のアンケートの第一の特徴は、回収率を上げるために、初めて「郵送」という方法を取ったことです。

これまでのアンケートは、会員専用メーリングリストで呼びかけ、メールで返送してもらう、という方法を取っていました。この方法はコストがかからないのがメリットなのですが、反面、どうしても回収率が低くなって、会員全体の動向を把握しづらい、という問題がありました。回収率は第一回の回収率が約40%。第二回、第三回は母数を示していませんが、もっと低い回収率でした。

郵送だと回収率が上がる一方で、費用もかさみます。そこで今回はアンケートの対象を2006年4月～8月入会者に限定しました。これは、ちょうど**入会后1年から1年半を経過した会員**、ということになります。

その結果、回収率は、62.5%と、まずまず満足のいくものになりました。アンケートに協力して下さった会員の皆様、感謝いたします。

今回のアンケートのもう一つの特徴は、従来のアンケートが会員のみを対象にしていたのに対して、はじめて、すでに退会された方も対象としたことです。

これは今回のアンケート調査の目的と関係があります。

つみきの会に対しては、時折外部のABAの専門家から、批判や疑問の声が寄せられることがあります。それは、「つみきの会は入会者に対して十分なフォローアップをしていないため、大量の挫折者を出しているのではないか」というものです。

確かにつみきの会は基本的に家庭療育のノウハウに関する情報を提供するだけで、あとは親が自力で療育をする、というシステムを取っているため、専門家が定期的に指導をする従来のスタイルに比べれば、挫折するケースが多くなると思います。

しかし私たちも挫折者を減らすために、各地で定例会を行ったり、メーリングリストで親同士が情報を交換し合ったり、先輩の親が「ABAお助け隊」として希望する会員の家庭を訪問するなど、いろいろな工夫をしています。決して今のままで十分だとは思いませんが、困難を自力で乗り越えて、お子さ

んの障害の軽減を実現される親御さんもたくさんいらっしゃるのです。

そこで、このような外部からの批判がどの程度、的を得ているのか、を確かめるために、初めて退会者も調査対象に含めることにしました。残念ながら退会者からの回収率は36%に止まりましたが、それでも貴重な情報が得られたと思っています。

これからアンケートの結果を紹介します。継続会員対象のアンケート（A）も、退会者用のアンケート（B）も、質問項目及び質問内容はほとんど同じですが、一部異なっている部分があります。大きく違うのは、退会者用アンケートには、退会理由を聞く項目を設けたことです。

以下の各質問のうち、継続会員・退会者共通の質問には「A B 共通」、継続会員だけの質問には「Aのみ」、退会者のみの質問には「Bのみ」と記載します。

質問1：最初に、いまこのアンケートを記入されているあなたと、障害を持つお子さんとの関係をお答え下さい（A B共通）

表1：回答者と子どもとの関係

回答項目	継続会員 62*	退会者 13*	総合 75*
イ 母親	56 (90.3%)	13 (100%)	69 (92.0%)
ロ 父親	6 (9.7%)	0	6 (8.0%)
ハ 祖父母その他の家族・親戚	0	0	0
ニ 医療・療育・教育関係者	0	0	0
ホ その他	0	0	0

*の数字は合計人数を表わしている。以下同じ。

この質問は、回答者が親ないし保護者かどうかを確かめるためのものです。つみきの会では既定の入会金及び年会費さえ納めれば、希望する人は誰でも正会員になれます。しかし療育関係者や同居していない親族には「準会員」、セラピストには「セラピスト会員」、医師には「ゲスト会員」という別枠があり、それぞれ無料ないし正会員より低い年会費を徴収しているので、正会員はほぼ親のみに占められているのが実情です。今回の調査でも、回答者全員が母親ないし父親でした。

質問2：(問1でイ～ハと答えた方のみ)お子さんの障害の種類(専門機関でもらった診断名。仮診断、疑いを含む)を教えてください(障害を持つお子さんが二人以上いらっしゃる場合は、どちらか片方についてお答え下さい。また1人のお子さんが複数の診断名をお持ちの場合は、一番最近に受けた診断名についてお答え下さい)(A B共通)

表2：子どもの障害名

回答項目	継続会員 62	退会者 13	総合 75
イ 自閉症(自閉傾向を含む)	27(43.5%)	9(69.2%)	36(48.0%)
ロ 高機能自閉症またはアスペルガー障害	9(14.5%)	0	9(4.2%)
ハ 広汎性発達障害(PDD)または非定型自閉症	22(35.5%)	3(23.1%)	25(33.3%)
ニ 精神遅滞・知的障害・発達の遅れ	4(6.5%)	1(7.7%)	5(6.7%)
ホ ダウン症	0	0	0
ヘ LDまたはADHD	0	0	0
ト 未診断	0	0	0
チ その他	0	0	0

この質問は、対象者のお子さんの障害の種類を尋ねたものです。「複数の診断名がある場合は、一番最近のものを」とお願いしたのですが、実際には何名かの方が、複数の項目に をされていました。その場合は、「高機能自閉症>自閉症>広汎性発達障害>その他の項目」の順に優先して1つの項目のみを回答とみなしました。つまり例えばある方がイとロの2カ所に をしていた場合は、ロを回答と見なし、ハとニの2カ所に をしていた場合には、ハを回答と見なした、ということです。

結果は、9割以上のお子さんが、自閉症(高機能やアスペルガーを含む)ないし広汎性発達障害でした。

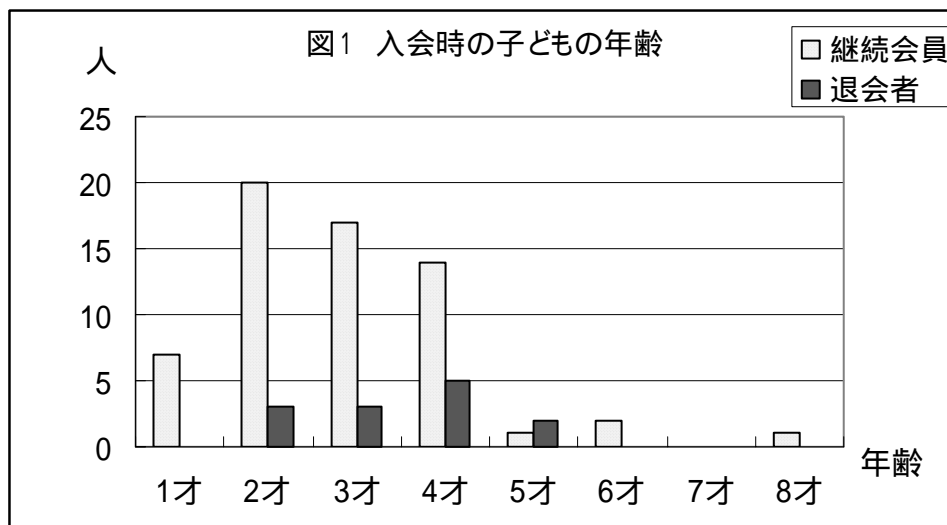
質問3：(問2で答えたお子さんについて)つみきの会に入会されたとき、お子さんは何才でしたか(A B共通)

表3：入会時の子どもの年齢

回答項目	継続会員 62	退会者 13	総合 75
1才台	7 (11.3%)	0	7 (9.3%)
2才台	20 (32.3%)	3 (23.1%)	23 (30.7%)
3才台	17 (27.4%)	3 (23.1%)	20 (26.8%)
4才台	14 (22.6%)	5 (38.5%)	19 (25.3%)
5才台	1 (1.6%)	2 (15.4%)	3 (4.0%)
6才台	2 (3.2%)	0	2 (2.7%)
7才台	0	0	0
8才台	1 (1.6%)	0	1 (1.3%)

入会したときの子どもの年齢を尋ねました。継続会員はピークが2才に来ていますが、退会者はピークが4才にあります(図1)。サンプル数が少ないので、何とも言えませんが、ここに退会される方の理由の一端が示されているのかもしれない。

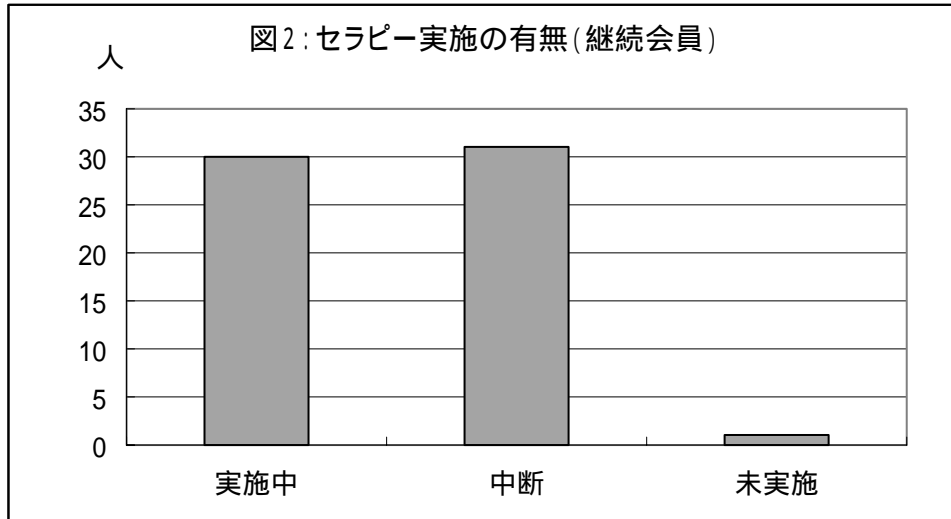
というのは、年齢が遅い場合、平均的に見ればそれだけ劇的な効果は上がりにくいと思われること、もう一つは4才くらいになると幼稚園が始まるので、それに時間を取られてしまって、どうしても家庭療育は続けにくくなる、ということが考えられるからです。



質問4a：いま現在、ご家庭でABA療育(デスクまたはセラピールームでのフォーマルなもの)を行なっていますか(Aのみ)

表4a：セラピー継続の有無(継続会員)

回答項目	継続会員 62
イ 行っている	30 (48.4%)
ロ 行っていたこともあるがいまは行っていない	31 (50.0%)
ハ 一度も行ったことがない	1 (1.6%)



これは継続会員を対象に、いまま A B A 家庭療育を続けているかを尋ねたものです。

一口に A B A 療育と言っても、きちんとした場所と時間を設けて 1 対 1 で行うフォーマルなもの(いわゆる「デスクセッティング」)もあれば、生活の中でいろんな機会を見つけてその都度行うインフォーマルなもの(いわゆる「機会利用型指導」)もあります。このうち親にとって負担が大きく、挫折しやすいのはデスクセッティングの方です。そこでこのフォーマルな A B A に限定して、いまま続けているかどうかを尋ねました。

その結果、入会から 1 年～1 年半経って、いままフォーマルな A B A 療育を続けている、と答えたのは約半数の 48% にすぎませんでした。ちょうど半数にあたる 50% の人は、「行ったこともあるが、いまは行っていない」と答えています。

この数字は私にとっては驚きでした。思った以上に多くの方が、1 年半以内にフォーマルな療育をやめていることがわかったからです。

前回、2005 年の調査でも同じ質問をしましたが、このときは約 6 割の人が、「今も行なっている」と答えていました。ただこのときは入会后 3 ヶ月以上経った方全員を対象としていましたし、回収率もいまより低いものでしたので、単純な比較はできません。

質問 4 b : つみきの会を退会された理由を教えてください (B のみ)

表 4 b : 退会の理由

回答項目	退会者 13
イ A B A のことが知りたくて入会したが、結局わが子にはフォーマルな A B A (きちんと時間を取り、1 対 1 で行うもの) は実施しなかった	3 (23.1%)
ロ フォーマルな A B A 療育をやってみたが、やめてしまった	4 (30.8%)
ハ いままフォーマルな A B A 療育を続けているが、会に居続けるほどのメリットがなくなった	2 (15.4%)
ニ その他	4 (30.8%)

これは退会者を対象に、退会した理由を尋ねたものです。残念ながら、回収率が低かったので、参考程度にしかなりません。

回答項目は、継続会員対象の質問 4 a と対比できるようにしてあります。ここでも「フォーマルな療育

をやめてしまった」と答えた人が多かったです。継続会員との違いは、一度も実施しなかった、と答えた人がやや多かったことです。

回答項目二（その他）は自由記述にしました。回答をすべて紹介します。

- ・生活の中に取り入れた自分なりのABAをして半年程で、「自閉症の傾向」と診断した医師から「自閉症ではない」と言われたため
- ・子どもが大きくなり、レベルの高い子の話ほど成長しておらず、メールを読むことも苦痛になりました
- ・ABAが本当に子どもにとって良いのかわかりません
- ・会に入る前からABAやいろんなことに取り組んでいたが、その成果が出て急成長し、年相応まで回復した。取り組むべきことが会でしている内容のものではなくなったので。

（総合）：いままフォーマルなABAを続けているか

表4c：セラピー継続の有無（総合）

	総合 71*
1 いまも続けている（質問4aのイ + 4bのハ）	32 (45.1%)
2 やめてしまった（質問4aのロ + 4bのロ）	35 (49.3%)
3 一度も行っていない（質問4aのハ + 4bのイ）	4 (5.6%)

*質問4bのニ（その他）と答えた4名は除いてある

ところで、継続会員向けの質問4aと退会者向けの質問4bを総合すると、いままフォーマルなABAを続けているかどうか、に関する、継続会員と退会者を含めた全体的な傾向を見ることができます。それが上の表です。全回答者のなかで、フォーマルなセラピーを継続中なのは45%、やめてしまった人がほぼ5割、残りが一度も行っていない人、と言う結果になりました。

質問5：ABA療育をやめてしまった、あるいは実施しなかった理由は次のうちどれですか（複数回答可）（AB共通）（質問4aでロまたはハと答えた人、及び質問4bでイまたはロと答えた人が対象）

表5a：セラピーをやめた理由（複数回答）

回答項目	継続 32*	退会 7*	総合 39*
イ 日常の中でのABA的関わりで十分、またはその方が適していると考えた	15	1	16
ロ フォーマルなABAはある程度目標を達成したので、日常の中のインフォーマルな関わりに移行した	11	2	13
ハ やって見たがうまくいかなかった。（あるいは）自信がなかった	6	2	8
ニ やろうと思いつながら、ふんぎりがつかなかった	0	3	3
ホ セラピーに疲れた	9	2	11
ヘ 精神的に落ち込み、続けられなかった	7	1	8
ト 幼稚園・保育所などに行くようになり、時間が取れなくなった	19	0	19
チ 幼い兄弟がいるなど、家庭の事情	10	0	10
リ 家族が非協力・無理解	2	0	2
ヌ その他	6	2	8

*はそれぞれの実数。複数回答なので、合計と一致しない。

質問5では、継続会員および退会者の双方から、ABA療育をやめてしまった、あるいは一度も行ったことがない、という人、計39人（やめた人35、一度も行っていない人4）だけを対象に、その理由を尋ねました。複数回答です。前回、2005年のアンケートでも、ほぼ似たような質問をしています。

ここで知りたかったのは、セラピーをやめる人たちが、本当にセラピーがうまく行かなくてやめていったのか、言い換えれば、「中断=挫折」なのかということです。まずは結果を見てみましょう。

単独で最も多かったのは、トの「幼稚園・保育所などに行くようになり、時間が取れなくなった」というもので、約半数の19人がこれを選択しています。「など」の中には、通園施設も含まれると思われます。

確かに幼稚園・保育所・通園施設に通いながら家庭療育を続けるのはなかなか難しいです。幼稚園はまだ拘束時間が少ないので、両立も可能ですが、保育所は毎日夕方まであるので厳しいでしょう。通園施設も平日毎日あり、2~3時頃終わって帰宅は夕方、ということが多いようです。さらに兄弟がいると、夕方から夜は兄弟もお母さんを必要としているので、きちんと時間を取ってセラピーをするのは、非常に困難になります。

しかし幼稚園・保育所・通園施設は、いずれも義務ではありません。その気になればこれらに行かせずに家庭療育を続けることもできます。それでも多くの親が、集団保育の効果に期待したり、どこにも行かせないのは不安だったり、いろんな理由であえて集団保育を選択します。さらにABA家庭療育がある程度効果を上げたので、次のステップとして集団保育を選択する人も少なくないはずです。

ですから、集団保育を選択した結果、家庭療育が続けられなくなっても、それだけでイコール「挫折」と捉えるのは間違いだと思います。

次に多かったのが、イの「日常の中のABA的関わりで十分、あるいはその方が適していると考えた」という理由です。口の「フォーマルなABAはある程度目的を達したので、インフォーマルな関わりに移行した」がこれに次ぎます。

これらは親御さんの判断であえて当初から、あるいは途中からインフォーマルなABA的働きかけを選択されたわけで、これも「挫折」とは言い難いでしょう。この二つを合わせて、のべ29名が選択しています。

それに対して、ハ、ホ、ヘは、「やってみたがうまくいかなかった」「疲れた」「精神的に落ち込んだ」というもので、これがつみきの会に対する批判にある、「家庭療育をやってみたけど、親の負担が大きくて挫折する」というイメージが一番近いと思います。のべ27名が選択しています。

ただ実際には、これらの異なった類型にまたがって複数回答している人が少なからずいました。このままでは実態がわかりにくいので、もう少し整理してみましょう。

まず質問5の対象となった39人のうち、一度も家庭療育を行っていない4人を除いた「中断組」35名を対象を絞ります。

次にその中で、「挫折」のイメージに最も近いハ、ホ、ヘのいずれか少なくとも1つを、他の選択肢と共に、あるいは単独で選択しているケースを「挫折群」と呼ぶことにします。

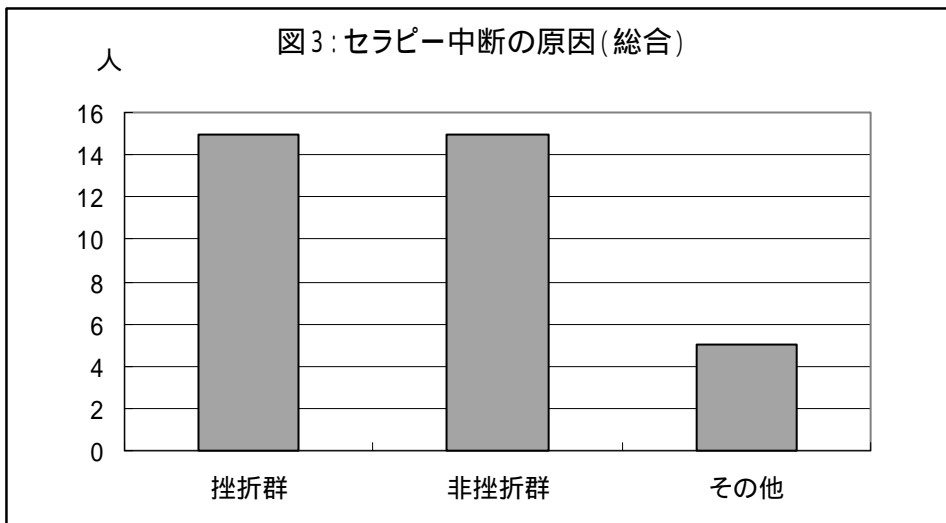
また「挫折」というより主体的に集団保育やインフォーマルな療育を選択したと思われる、イ、口、トのいずれかのみを選択し、それ以外を選択していない（つまり「疲れた」「落ち込んだ」「兄弟がいる」「家族の無理解」などを含まない）ケースを「非挫折群」と呼びます。

そしてそのいずれにも属さないものを「その他」と呼びます。
すると、次のようになりました。

表 5 b : セラピーをやめた理由

	継続 31	退会 4	総合 35
挫折群 (ハ、ホ、へのいずれか選択)	13 (41.9%)	2	15 (42.9%)
非挫折群 (イ、ロ、トのいずれかのみ)	13 (41.9%) *	2	15 (42.9%)
その他	5 (16.1%)	0	5 (14.3%)

* トと又 (その他) を選び、又で「可能な限り行っている」と答えた 1 名は非挫折群にカウントした



このように継続会員、退会者とも、挫折群と非挫折群にきれいに二分されています。ここから、セラピーをやめた人たちもすべてが不本意に挫折したのではなく、インフォーマルな療育を選択したり、集団保育を優先した結果、中断に至ったケースが、退会者も含めて、挫折組と同じくらいの割合存在するらしいことが窺えます。

入会者のうち、一年半範囲内にセラピーを中断するケースが、全体の約 5 割、そのうち約 4 割が「挫折群」ですから、入会者全体からみると、その約 2 割が「挫折群」ということになります。

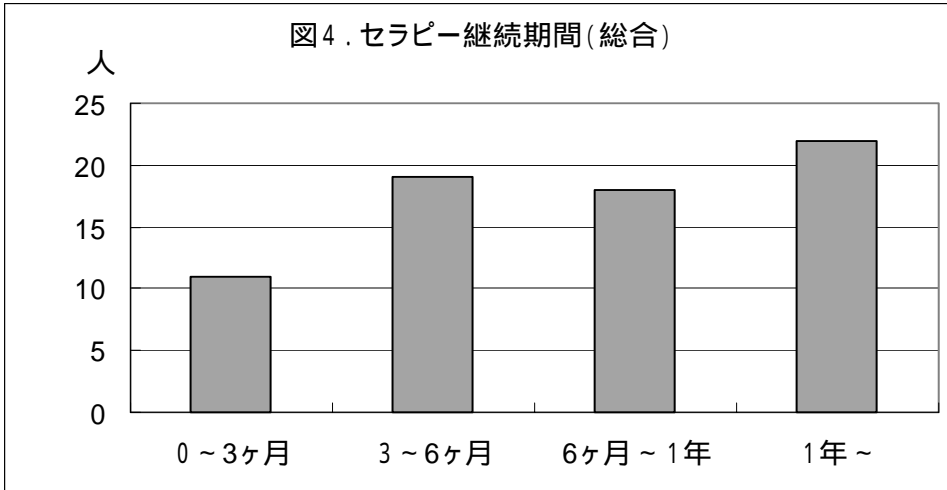
なお、「その他」の 5 名の内訳は、又のみ選択 (てんかんによる入院中。退院後再開予定)、チのみ、イ、ト、チ、又 (ST, OTに通い、同じようなことをやっている) を選択、トと又 (親がまじめに続けなかった努力不足)、イ、ト、チ、リ (家族の無理解) でした。

(質問 6 ~ 8 はデスクでのフォーマルな ABA を実施したことのある人のみ対象)

質問 6 : デスクでのフォーマルな ABA を実施した期間を教えてください (途中の中断期間は差し引いて下さい)

表 6 : セラピー継続期間

	継続 61	退会 9	総合 70
イ 3ヶ月未満	9 (14.8%)	2 (22.2%)	11 (15.7%)
ロ 3ヶ月以上6ヶ月未満	18 (29.5%)	1 (11.1%)	19 (27.1%)
ハ 6ヶ月以上1年未満	16 (26.2%)	2 (22.2%)	18 (25.7%)
ニ 1年以上	18 (29.5%)	4 (44.4%)	22 (31.4%)



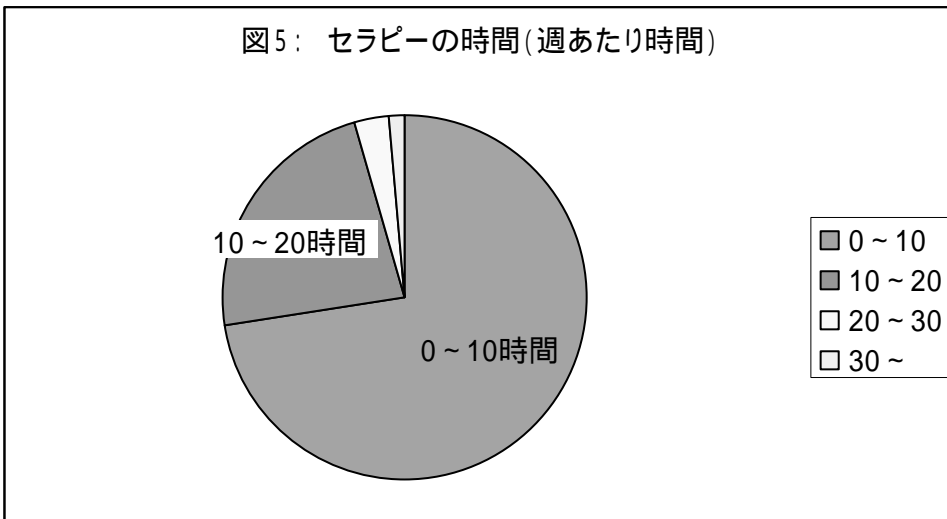
継続会員、退会者共に、フォーマルなABAを実施したことがある人に限って、その継続期間を尋ねました。この中にはすでに中断している人と、継続中の人両方含まれています。元々、今回のアンケート対象者が入会して1年から1年半程度の人たちなので、自然と継続期間の短い人が多くなります。全会員を対象にすれば、長期継続者の割合はもっと増えるはずで

質問7：デスクでのフォーマルなABAを家庭で、週に何時間程度行っていますか(あるいは行いましたか)(時期によって変動がある場合は、おおざっぱでいいですから、平均的な数字をお答え下さい。学校や療育機関に通っている時間や日常の中でインフォーマルに指導している時間は含みません)

表7：セラピー実施時間(週あたり)

	継続 61	退会 8*	総合 69
イ 週10時間未満	44 (72.1%)	6 (75.0%)	50 (72.5%)
ロ 週10時間以上20時間未満	14 (23.0%)	2 (25.0%)	16 (23.2%)
ハ 週20時間以上30時間未満	2 (3.3%)	0	2 (2.9%)
ニ 週30時間以上	1 (1.6%)	0	1 (1.4%)

*無効回答が1名



週ごとに ABA セラピーにどのくらいの時間を割いているか（割っていたか）を尋ねました。その結果、週 10 時間未満と答えた人が約 7 割で、圧倒的に多いことがわかりました。1 日あたりだと、30 分～1 時間、という人が多いものと思われます（今回、1 日あたりの時間数は質問しませんでした）。

ロヴァース博士は週 40 時間がベスト、と言っており、従来の研究でも、週 20 時間以上の早期集中介入でないと、非介入群に比べて統計上有意な差は認められていません。ですから、つみきの会でもなるべく週 20 時間以上の家庭療育を勧めています。しかし実際には、多くの会員が週 10 時間未満、という「無理のない」療育を選んでいることがわかります。

従来のアンケート調査でも、同じような傾向はありましたが、例えば前回 2005 年の調査では、「週 10 時間以下」と答えた人は全体の 5 割に留まっていた。

ただこれは前回までのアンケート調査が郵送によらず、メールによる回答を呼びかけたもので、会員の中でも比較的熱心な方が多く回答されたと思われることと関係がありそうに思います。今回の方が、会員全体の実態により近いのではないのでしょうか。

質問 8：デスクでのフォーマルな ABA 家庭療育を担当している方はどなたですか（いくつ をしてもかまいません。複数の場合は、最も長い時間を担当されている方に をつけて下さい）（A のみ）

表 8 a：セラピー担当者（複数回答）

	+ の数	の数
イ 母親	54	49
ロ 父親	15	3
ハ その他の家族	0	0
ニ 家庭以外のセラピスト	15	4
ホ その他	0	0

セラピーの担当者を、継続会員に尋ねました。この質問は退会者にはしませんでした。退会された方にあまりセラピーの詳細について立ち入ったことを聞く必要性は乏しい、と考えたからです。

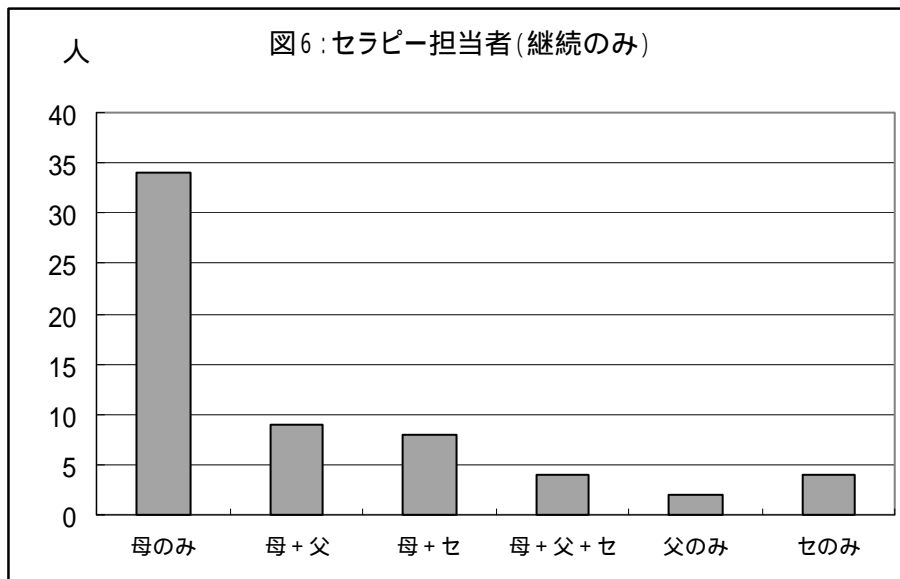
表からわかることは、大部分の家庭で、母親が療育の主な担い手であること、しかし父親や家族以外のセラピストが母親を補助したり、母親の代わりに主たる担い手になるケースもあること、です。

複数回答なので、%は出していません。

同じ質問に対する回答を、療育担当者の組み合わせパターン別に整理し直してみました。

表 8 b：セラピー担当者（パターン別）

療育の担い手	継続 61
a. 母のみ	34 (55.7%)
b. 母 + 父	9 (14.8%)
c. 母 + セラピスト	8 (13.1%)
d. 母 + 父 + セラピスト	4 (6.6%)
e. 父のみ	2 (3.3%)
f. セラピストのみ	4 (6.6%)



今回は重複がないので、%を出すことができます。母のみ担当、という家庭が一番多く、半数を超えています。父親が手伝っている家庭も約 25%あります。セラピストに来てもらっている家庭(c+d+f)は約 20%です。

質問9．入会されてから現在までにお子さんが出来るようになった課題または変化を教えてください(入会してから出来るようになった課題に、入会前から出来ていたものには、いまでもできないものには×をして下さい)

表9a：入会してからの変化(継続会員 62 名全員)

入会してからできるようになった、 入会前からできていた、 ×いまでもできない

			×・無記入
イ マッチング(全く同じ実物またはカードで)	41(66.1%)	18(29.0%)	3(4.8%)
ロ 動作模倣(ランダムでできるものが10以上)	47(75.8%)	9(14.5%)	6(9.7%)
ハ 音声指示(ランダムでできるものが10以上)	44(71.0%)	11(17.7%)	7(11.3%)
ニ 音声模倣(模倣できる単音が10以上)	42(67.7%)	12(19.4%)	8(12.9%)
ホ 物の受容的命名(名前を言われて選べる物がランダムで10以上)	36(58.1%)	18(29.0%)	8(12.9%)
ヘ 物の表出的命名(「これ何?」と聞かれて名前を答えられる物が10以上)	34(54.8%)	14(22.6%)	14(22.6%)
ト 意味のある自発的な発語(10単語以上)	31(50.0%)	14(22.6%)	17(27.4%)
チ トイレの自立(おしっこもウンチも自分でできる)	30(48.4%)	12(19.4%)	20(32.3%)
リ 問題行動(かんしゃくなど)の減少	34(54.8%)	34(21.0%)	15(24.2%)
ヌ 発達指数・知能指数の10以上の上昇(同一の検査で)*	12(19.4%)	0	50(80.6%)

*ヌは実際のアンケートでは、検査名、数値も尋ねた。回答がとなっていて、別の検査だったり、当初測定不能、と答えているケースは×扱いにした。

表9 b : 入会してからの変化(退会者 13 名)
 入会してからできるようになった、 入会前からできていた、 ×いまでもできない

			×・無記入
イ マッチング(全く同じ実物またはカードで)	6(46.2%)	7(53.8%)	0
ロ 動作模倣(ランダムでできるものが10以上)	5(38.5%)	7(53.8%)	1(7.7%)
ハ 音声指示(ランダムでできるものが10以上)	5(38.5%)	7(53.8%)	1(7.7%)
ニ 音声模倣(模倣できる単音が10以上)	4(30.8%)	7(53.8%)	2(15.4%)
ホ 物の受容的命名(名前を言われて選べる物がランダムで10以上)	5(38.5%)	6(46.2%)	2(15.4%)
ヘ 物の表出的命名(「これ何?」と聞かれて名前を答えられる物が10以上)	7(53.8%)	4(30.8%)	2(15.4%)
ト 意味のある自発的な発語(10単語以上)	6(46.2%)	5(38.5%)	2(15.4%)
チ トイレの自立(おしっこもウンチも自分でできる)	6(46.2%)	5(38.5%)	2(15.4%)
リ 問題行動(かんしゃくなど)の減少	7(53.8%)	4(30.8%)	2(15.4%)
ヌ 発達指数・知能指数の10以上の上昇(同一の検査で)*	1(7.7%)	0	12(92.3%)

*ヌは実際のアンケートでは、検査名、数値も尋ねた。回答がとなっていて、別の検査だったり、当初測定不能、と答えているケースは×扱いにした。

入会してから出来るようになった課題や変化を、継続会員、退会者の両方に尋ねました。

表よりも、次ページのグラフを見て頂いた方がわかりやすいと思いますが、まず継続会員(図7、表9 a)を見ますと、マッチング、動作模倣、音声指示といった初期課題は、いずれも7割前後の方が入会後にできるようになっています。

またABA療育の中でも難しい課題とされる音声模倣についても、同じく7割の方が、入会後にクリアされています。

次に音声模倣の延長上にある課題である物の表出的命名や自発的な発語はいわば「ことばの表出」ということですが、入会後におよそ5割の方ができるようになっています。

トイレの自立や問題行動の減少も同じく5割前後です。

「発達指数・知能指数の10以上の上昇」ですが、これはそもそも発達検査や知能検査を一度も受けていないお子さんが多く、受けていても療育開始後だったり、検査の種類が異なっていたりするので、×や無回答が多いのはあらかじめ予想できました。その割に、約2割の方が、「入会後に同一の検査で10以上上昇した」と答えたことは、むしろ驚きでした。

次に図8(表9 b)は退会者に同じ質問をした結果です。データが少ないので何とも言えませんが、一見して、つまり入会前からすでにできていた、という回答が継続会員よりも多い傾向が窺えます。これは入会時の子どもの年齢(退会者の方が高い傾向にあった)と共に、退会者の退会原因を窺わせるもう一つの根拠になると思います。

というのは、退会された方には、お子さんが入会時からすでにある程度のことができていたため、療育の成果を実感することが相対的に少なく、それが退会につながったのではないかと推察されるのです。言い方を変えれば、高機能児も含めて、比較的能力の高いお子さんのニーズに、つみきの会が十分応えていない、ということかも知れません。

図7: 入会後の変化(継続会員)

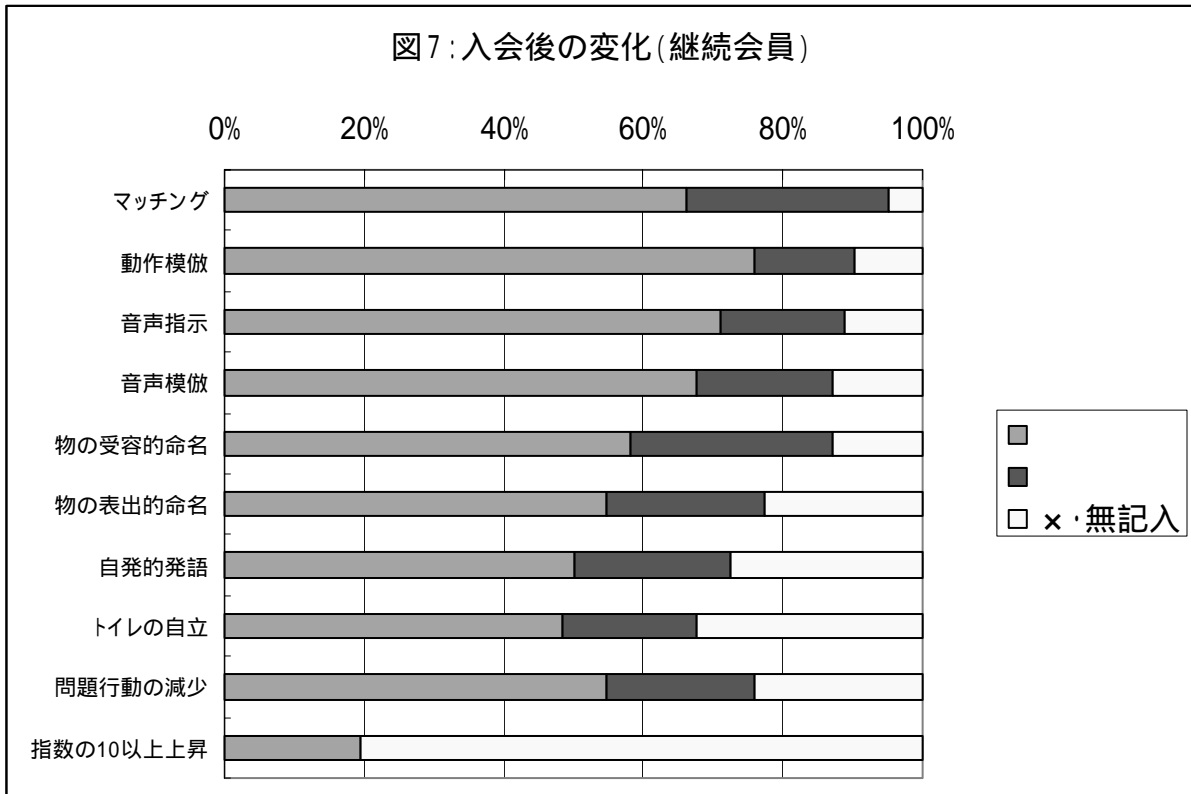
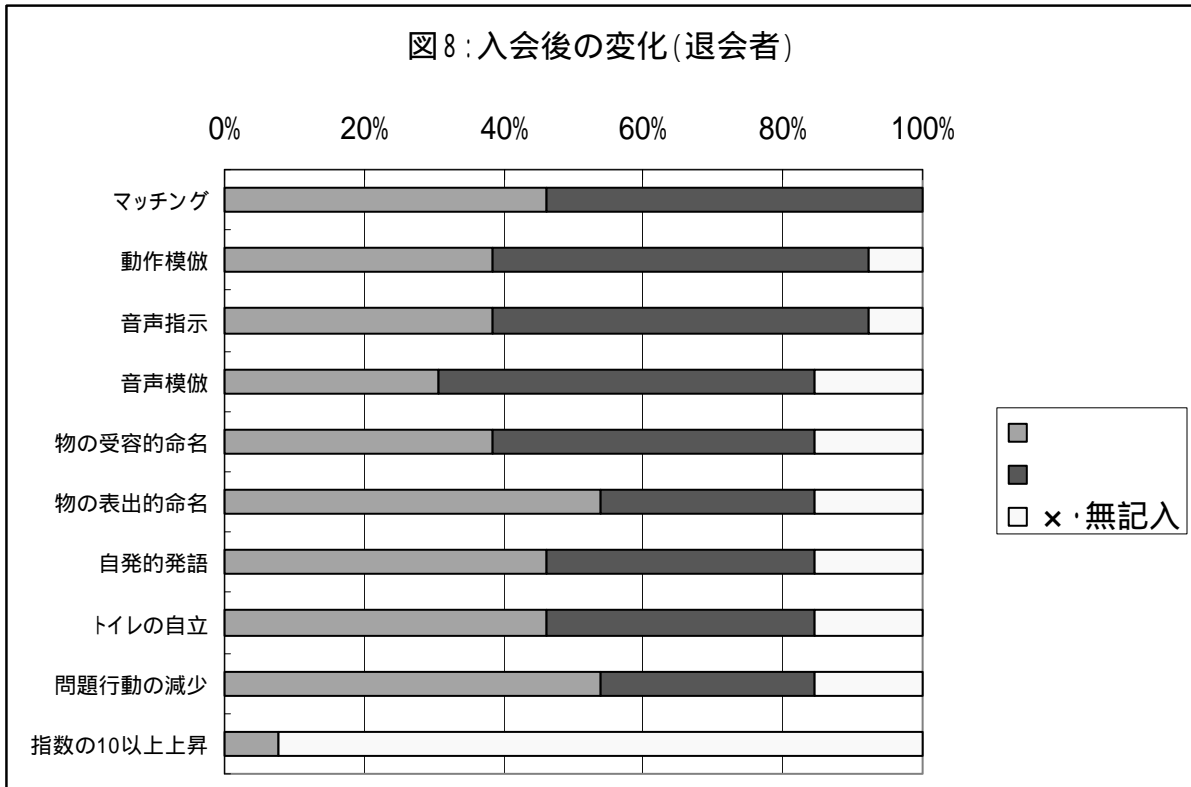
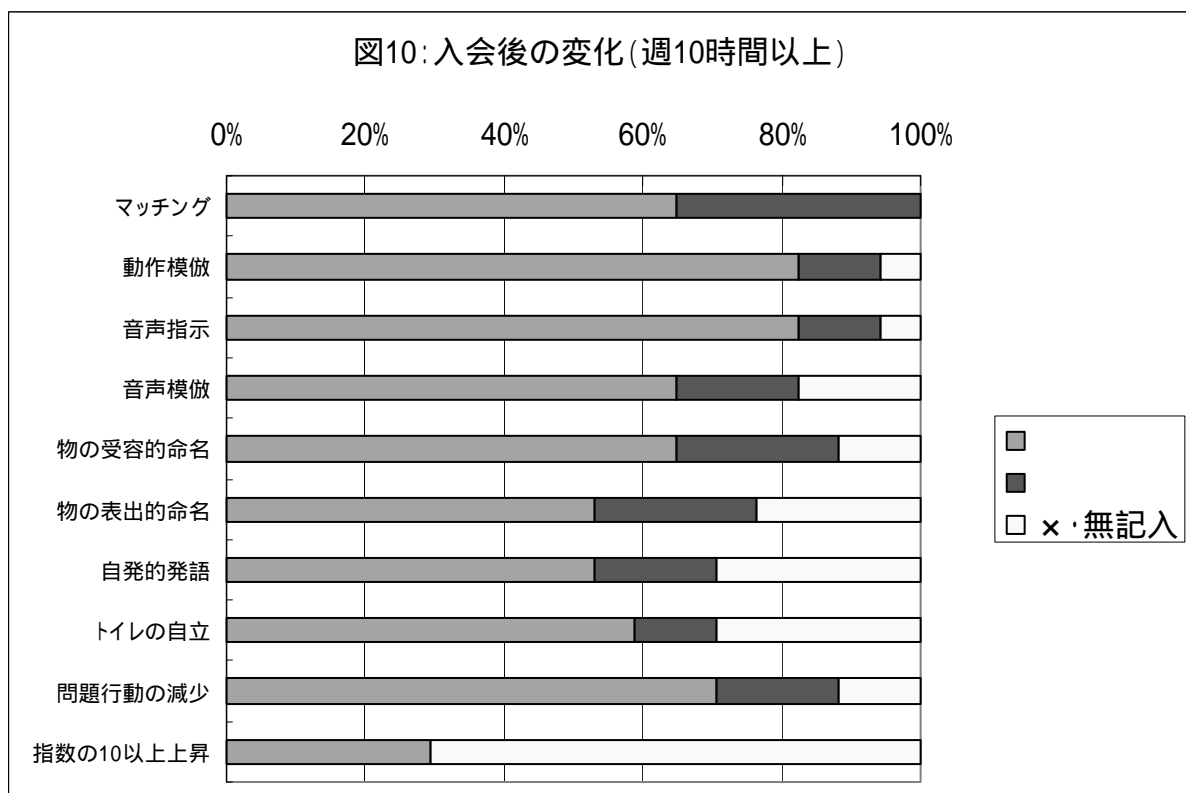
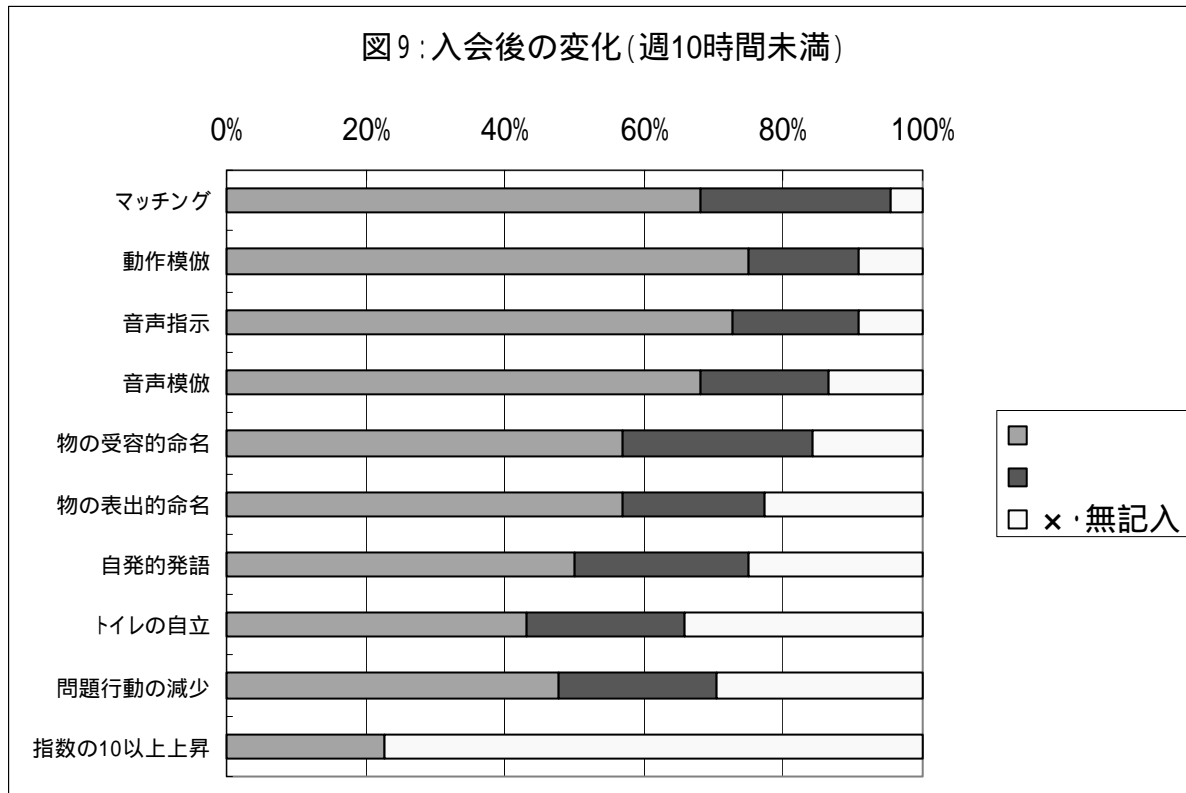


図8: 入会後の変化(退会者)



次に継続会員に限定して、セラピー時間が週10時間未満のグループ(44人)と、週10時間以上のグループ(17人)に分けて、入会後の変化を比較してみたのが、次ページの図9, 10です。



図から分かるように、動作模倣、音声指示、物の受容的命名、トイレの自立、問題行動の減少などで、週 10 時間以上の群の方が、「入会後にできるようになった」という回答が多くなっています。特にトイレの自立、問題行動の減少で、差が顕著です。

これは週 10 時間未満の療育でも、デスク課題はある程度前進するが、問題行動の減少やトイレの自立は、1 日を通した継続的な介入が必要なために、長時間の療育の効果がやすい、ということかもしれません。

細かな数値は、以下の表を見て下さい。

表 9 c : 入会してからの変化 (週 10 時間未満、継続会員 44)

入会してからできるようになった、 入会前からできていた、 ×いまでもできない

			×・無記入
イ マッチング (全く同じ実物またはカードで)	30(68.2%)	12(27.3%)	2(4.5%)
ロ 動作模倣 (ランダムでできるものが 10 以上)	33(75.0%)	7(15.9%)	4(9.1%)
ハ 音声指示 (ランダムでできるものが 10 以上)	32(72.7%)	8(18.2%)	4(9.1%)
ニ 音声模倣 (模倣できる単音が 10 以上)	30(68.2%)	8(18.2%)	4(9.1%)
ホ 物の受容的命名 (名前を言われて選べる物がランダムで 10 以上)	25(56.8%)	12(27.3%)	7(15.9%)
ヘ 物の表出的命名 (「これ何?」と聞かれて名前を答えられる物が 10 以上)	25(56.8%)	9(20.5%)	10(22.7%)
ト 意味のある自発的な発語 (10 単語以上)	22(50.0%)	11(25.0%)	11(25.0%)
チ トイレの自立 (おしっこもウンチも自分でできる)	19(43.2)	10(22.7%)	15(34.1%)
リ 問題行動 (かんしゃくなど) の減少	21(47.7%)	10(22.7%)	13(29.5%)
ヌ 発達指数・知能指数の 10 以上の上昇 (同一の検査で) *	10(22.7%)	0	34(77.3%)

表 9 d : 入会してからの変化 (週 10 時間以上、継続会員 17)

入会してからできるようになった、 入会前からできていた、 ×いまでもできない

			×・無記入
イ マッチング (全く同じ実物またはカードで)	11(64.7%)	6(35.3%)	0
ロ 動作模倣 (ランダムでできるものが 10 以上)	14(82.3%)	2(11.8%)	1(5.9%)
ハ 音声指示 (ランダムでできるものが 10 以上)	14(82.3%)	2(11.8%)	1(5.9%)
ニ 音声模倣 (模倣できる単音が 10 以上)	11(64.7%)	3(17.6%)	3(17.6%)
ホ 物の受容的命名 (名前を言われて選べる物がランダムで 10 以上)	11(64.7%)	4(23.5%)	2(11.8%)
ヘ 物の表出的命名 (「これ何?」と聞かれて名前を答えられる物が 10 以上)	9(52.9%)	4(23.5%)	4(23.5%)
ト 意味のある自発的な発語 (10 単語以上)	9(52.9%)	3(17.6%)	5(29.4%)
チ トイレの自立 (おしっこもウンチも自分でできる)	10(58.8%)	2(11.8%)	5(29.4%)
リ 問題行動 (かんしゃくなど) の減少	12(70.6%)	3(17.6%)	2(11.8%)
ヌ 発達指数・知能指数の 10 以上の上昇 (同一の検査で) *	5(29.4%)	0	12(70.6%)

アンケートの最後に、継続会員、退会者の両方に、「つみきの会に入ってよかったこと」と「つみきの会の問題点、改善点」を、自由記述で聞きました。

会員、退会者の生の声は貴重な情報だと思いますので、できるだけ多くの方のお答えを、無修正で紹介します（ただし私やスタッフへの感謝や励ましの言葉は省略させていただきます。沢山の励まし、ありがとうございました）。

「よかったこと」「問題点」の両方とも、まず退会者の意見を採り上げます。続いて継続会員のうち、セラピーをすでに中断し、さらにその原因をこの報告で「挫折群」「その他」に分類した方々の意見を取り上げます。なぜならこれらの方々が、つみきの会に対して最も厳しい意見をお持ちであることが予想されるからです。

ついで「中断・非挫折群」「継続群」の順にご紹介します。「継続群」は数が多いので、一部の方のみのご紹介になります。

質問 10 . つみきの会に入会されて、よかったと思われることがあれば、教えて下さい。

< 退会者 >

最初に退会された方々からいただいたご意見をすべて紹介します。

- ・とてもよいアドバイスをもらえたこと。会のビデオや資料を貸して頂き、「これは取り入れよう」というものがたくさんありました。また私以外の方にABAをして頂けたり、他のお子さんにABAができたことがとても楽しかったです。

- ・ABAとは何か知ることができたこと。

- ・言葉のない我が子への接し方がABAに変えたことで、言葉をどんどん引き出すことができました。「ママ」さえも言えなく、何かほしい時は、「アアアアア」、かんしゃくも「アアアアア」だったのがウソのように会話ができるようになりました。少しでも言葉が出たら、大げさにほめること、問題行動にはムシ（心で見守る）のやり方がこの子には合っていたようです。

- ・子どもへの接し方について知ることはたくさんありました。我が家はフォーマルはやりませんでした。日常において様々参考にした点は今でもたくさんあります。

- ・あきらめる事なく教え続けることで自閉症児もちゃんと学んでいくと知ったことは大変大きかった。子どもが覚えられないのではなく、大人の教え方が間違ってるのだと教えてもらった。つみきの会に出会わなければ、もともと重度の息子は発語することはなかったと思う。ABAもVBもRDIもキレーションもすべてつみきの会からの情報で始めており、本当に会には感謝している。

- ・色々な人の話を聞いて、とても参考になった。

- ・親のやる気があがった。

- ・わかりません。すみません。

- ・MLで相談できた。

- ・3才の検査時、トイレの自立がなされていないので、1才くらいと言われ、就学前の検査でアスペルガー領域と言われました。ABAセラピストをしていた方と出会い、教えて頂きました。アメリカのHPよりつみきの会を知り、入会。彼女のセラピーが何をしているのかが、つみきの情報により、よく分かりました。また息子の問題について過去ログなどを読み、息子の療育に役立ちました。何よりも疲れたとき、1人じゃないと思えること。細かく分けると息子もできた、という成功体験が大事だと分かりました。

- ・発達障害についての知識が得られました。

< 継続会員：中断群（挫折、その他） >

継続会員のうち、すでにセラピーを中断されていて、中断理由が「挫折群」と「その他」に分類される

方々の声をすべて紹介します。

- ・ A B Aを知ることができてよかったです。
- ・ A B A家庭療育の具体的・実用的手法をていねいに紹介して下さっているので、希望の道が拓けました。医師は診断はしてくれても、そこから先のフォローはないに等しいので……。またMLや各種講演会での情報交換も、非常に有益かつ心の励みになっています。
- ・子どもに対してどう接するべきかわからず、日々時間を無駄にしている気がして焦っていた頃、運よくネットで「つみきの会」を知りました。それでももう少し早く見つけていればと思いましたが……。けれどその時、自分が何をすべきか、どう働きかければいいのか、という明確な答えが「つみきBOOK」にあり、精神的に楽になりました。
- ・関わり方のポイントが、とてもわかりやすくなった。悩んでいる人が沢山いる、という心強さ。
- ・デスクでは時間もなく、なかなかできないが、A B Aというものが何となくわかったので、日常的に取り入れています。つみきの会のおかげで色々できるようになったと思います。MLも大変役に立っています。
- ・どんな風に子どもと関わっていけばよいか、路頭に迷ったときに、行くべき方法を見つけたような、救われた思いがしました。今ではセラピーを完璧でなくてもやっていた時間のおかげで知的に伸び、問題行動も減ったのでありがたいです。
- ・みんなが非常に頑張っており、努力されていることで「こちらも頑張らないといけない」と勇気づけられたこと。
- ・A B Aをやってから、全く言葉がなかった子が音声模倣が少しずつできるようになり、言葉も出てきた。2ヶ月程度だったが、お助け隊の方にアドバイスをもらい、今何をすべきかを教えてもらえ、実践していただいたのは、とてもためになった。
- ・動作模倣、音声模倣ができるようになった。
- ・同じような思いを抱えて頑張っておられる親御さんたちのメール等拝見できて何度も励まされました。また問題行動の解決方法などのアドバイス、様々な情報もとても役に立ちました。恥ずかしながら、きちんとセラピーを続けて来れなかったものの、日常生活において、つみきBOOKやメールから学んだことは、多々生かされていると思います。
- ・MLの情報、ミニマガ。
- ・つみき通信がとても勉強になる。専門的なこともわかりやすく書かれている。子どもの問題行動が減った！！かんしゃくを起こしても慌てることなく、スムーズに対応できる。子どもも立ち直りが早くなった。困ったとき、たくさんの会員からアドバイスがもらえる。同じような悩みがあることも安心できるし、解決策もいろいろで役に立つ。
- ・あまり親や子どもの横のつながりがなく（自閉的な傾向や発達の違いに関しての）不安や焦りを感じていましたが、いろいろな人のいろいろなやり方や工夫を教えてもらい、気づきや自信があり、励まされました。子どもの目に見える変化もあり、とても楽しかった。
- ・いろんな人がいて刺激になります。メーリングリストはとても参考、励みになります。
- ・1才台だと受け入れてくれる療育施設もなく、家庭で取り組めることを探していたので、とても助かった。（療育センターで、家庭で取り組める課題は何かないかと相談しても、この年齢では何もない、と言われてしまった）またメーリングリストで同じ悩みを持つ方の声や状況を常に聞けるので、心強い。短時間でしか連続したA B Aは試していないが、手遊びの課題（特にパズル）で集中力が高まった。

< 継続会員：中断群（非挫折） >

継続会員のうち、すでにセラピーを中断されていて、その理由が「非挫折群」に分類される方々の意見をすべてご紹介します。

- ・ A B A的関わりは全ての子どもに対していいと思うこと。

- ・MLを活用して悩みを解決できた、あるいは励まされたこと。途方に暮れ、孤独感を感じていたが、仲間が全国にいると思うと安心できた。MLを通して知り合いが出来たこと。
- ・療育において道に迷うことなく、信念を持って何事にも対応できるようになったこと。幼いうちから時間を有効に使えたこと（悩む時間がほとんどなかった）。
- ・日常的な関わりの中にABAを組み込みやすくなった。有意義な情報がメールやサイトで閲覧できる。
- ・デスクワークでは、ほうびを与えることでずいぶん集中する力が出た。夏休みの宿題プリントをするのもなかなか集中できなかったが、ABA方式によって、1問1問の計算にまじめに取り組む姿勢が出て、ずっとこの方法でやりました。担任の先生にも入学時にABAについて説明したところ、とてもわかりやすいと気に入ってもらえ、マニュアル本を読んでもらえました。授業中も意識してABAをと入り入れてもらえてると思います。
- ・発達に効果があったこと、訓練の細かなやり方を教えてもらった。市の施設や近くの医療機関では得られなかった。
- ・同じ悩みを持つ人がたくさんいるということがわかって心強い。色々な解決策を知ることができた。自分の子どもより年上のお子さんの様子を知ることができ、希望がわいた。
- ・障害の有無に関わらず、子どもを育てていく上で、親としてとても得るものがありました。迷ってばかりで正しいかどうか手探りで行くより、子どもの発達を具体的に観察しながら、親子でがんばれるようになりました。
- ・子どもとの距離が狭くなったこと。自閉症についての知識が広がったこと。努力していく勇気が持てたこと。
- ・毎日メールを通じて問題の解決方法を知り、生きるヒントを得ることができてよかったと思います。悩み苦しんでいる親が自分だけではないのだ、親が真剣に取り組み、ABAを実践すれば、子どもは変わるのだ、という連帯感を感じられるようになりました。また情報量も増え、知識を得ることができ、よかったです。
- ・適切な接し方がわかってよかったです。
- ・MLで様々な意見を知ることができる。定例会のミニ講義が受けられる。
- ・子どもの問題行動の消去の仕方とか、正しく教わる事ができてよかったです。今、喋れるようになっていますが、当会で、注目させたり、着席させたり・・・ということを指導してもらって、学習の素地が完成し、予想以上に早く喋れるようになった、と思います。

< 継続会員：継続群 >

継続会員のうち、現在もセラピーを継続している人たちの声の一部を紹介します。

- ・どのように関わっていけばよいかわからなかった。一人遊びさせてはいけないとは思っていたが、間が持たなかったので救われた。
- ・いろいろな情報が得られて、困ったときに相談に乗ってもらえた。
- ・すべてにおいてよかったです。ABAを知らなければ、現在のように絶対になっていません（3才6ヶ月で発語ほとんどなし 現在、4才5ヶ月で自発で3語文くらい）。
- ・私の息子は重度知的障害と言われていましたが、強化子と強化により、いろんな事を知ったり、理解できるようになりました。良い行動、正しい行動を強化し、悪い行動、減少させたい行動は無視する、ということをやって、かんしゃくも減りましたし、やる気がすごく出てきました。今、3年生で一学期中に1年生の算数を終了させました。普通の子たちよりかなり早いスピードで訓練をしていっていますが、良く頑張っていると思います。かけ算も割り算も、漢字にも興味を持ってくれたので、これからが楽しみです。（後略）（編注：入会時8才）
- ・マニュアルがあって助かった（つみきブック）。実際に指導も受けられて勉強になる。メーリングリスト等も大変参考になり有り難い。

- ・問題行動（かんしゃく）の消去の仕方がわかった。近頃、会話が少しずつできるようになってきた。ABAをやれば、必ず結果がでる！！
- ・重度の自閉症との診断で、5才頃までは声かけや作業療法を行っていましたが、その行動はほとんど改善されなかったように思われました。発語もありませんでした。昨年5月からABAに取り組み、今では単音の発語や音声模倣も少しできるようになりました。色々な要求も多くなり、アイコンタクトもできつつあります。何よりも家族が明るく仲よくなったことがうれしく思います。ただ、私はこの2年間で環境ががらっと変わり、その変化について行けない状況ではありますが、今後も頑張っていきたいと思っています。（編注：入会時6才）
- ・療育をしていく上で、他の会員の方のやり方などを知ることができ、非常に参考になる。何から初めていいかわからなかったが、つみきのbookにであい、初歩の療育に非常に役立った。つみきの会に入会し、ABAを知り、1年強、療育をやっているが、周りがびっくりするほど子どもが成長し、今後希望が持てた。

質問11．つみきの会の問題点、改善すべき点と思われる点があれば、教えて下さい。

< 退会者 >

退会された方のうち、ご意見頂いた方全員の声を紹介します。

- ・ABA療育を親だけで始めるのは難しかったです。最初だけでも専門家にやってもらいたかった。
- ・MLが出しにくく、一度も相談できませんでした。でも読んでいただけでも仲間意識がついて1人じゃないと励まされました。インターネットでどうやってつみきの会にたどり着いたのか、覚えていないほど、あちこち見て回りましたが、偶然にもこの会に出会えて本当によかった。ABAの普及で助かる子どもたちが増えることを祈ります。
- ・VBもRDIも日々進化していて、過去の反省点があれば即改善する方向に動いていると思う。なのでつみきの会も「ロバースのABA」とらわれず、日々進化しているABAを積極的に取り入れてもらいたい。また、その事を自由に話し合える場であってほしいと思う。DTTのABAが合う子どもと合わない子どもがいると思うので、その点の選択肢が増えてほしい。（うち長男にはDTT、次男はDTTは全くしなかった。2人とも自閉症）
- ・家で家族がやろうとすると、とにかく大変です。
- ・友人もつみきの会に興味を持ったが、年会費が高くて入会していない（できなかった）。ビデオとか本、講演の申し込み方法が複雑で、どうやって申し込みするのか、わからないのがあった。私にはABAは合わなかったけど、周りの方は熱心にされていました。・運動クラブなどフォーマルデスク課題以外の集まりがあればいいと思う。
- ・療育が忙しくメールをチェックするのが大変でした。読むのがたまるストレスとメールに追っかけられているような気がして、読むのをやめたのが退会の理由です。育った子どもたちへの情報も少なく、8000円支払う価値はないかも、と思いました。しかし今も、本を買うときはつみきのアマゾンから購入したりなどしております。友人にもつみきの会の話はしましたが、ABAを始める方もおらず、何よりもあきらめている親御様が多いと実感します。が大変な時を乗り越えて、息子は息子なりにしっかり成長しております。毎日忙しく走り続けた感じですが、つみきの会に出会えて息子が変わったこと（接し方がわかりました）は何よりの宝です。
- ・発達障害には個人差があり、ABAが全ての人に合うとは言えないと思います。うちの娘は今4才半ですが、ここ一年ほどでとても発達が進みました。それは人との関わり、人との交わりを大切に、障害者としてではなく、娘を人間として見てきました。人間として見れば一生人間ですが、障害者としてみれば一生障害者です。ABAは時として人間らしく扱っていないように思えます。そしてここに来て

いる子どもたちを特別な子ではなく一個人として見てほしいと思います。子どもたちにとって大切な事は学校に行けること、勉強ができること、そして一番大切なのは人様に迷惑をかけずに生きていけることです。そういう指導をして下さい。

< 継続会員：中断群（挫折、その他） >

継続会員のうち、すでにセラピーを中断されていて、その理由が「挫折群」と「その他」に分類される方々のご意見をすべて紹介します。

・つみきの会の問題点、というわけではありませんが、ABA療育は優れているとわかっていても、息子もだんだんと知恵がつき、また母親に対しても甘えが出てきて、だんだんやりにくくなり、また下の子も赤ちゃんということもあり、療育から遠ざかってしまいました。子どもの成長と共に、親だけではなく、セラピストさんのような、継続して親と共に子どもの成長を見守ってくれる第三者の必要性を強く感じております。なので、今後セラピストさんがもっと増えて、幅広い人がお力を借りられるような体制ができていくとよいと思います。

・集団の中でのコミュニケーションが我が子にはいまだにできません。般化は難しいです。でもABAは効果が一番あると思います。民間の療育はぼったくり？的なところもあり、良心的でよかったです。

・つみきの会の療育施設があればいいな、と思います。セラピストがもっといらっしやればいいですね。

・私どものようなゆうれい会員も多くおられるのではないかとと思いますが、今回のようにこういったアンケートや進捗状況を確認するようなことがあれば、「ドキッ」としてまたセラピーをがんばらなきゃ・・・と思う人もいるのではないのでしょうか。そう言う意味でも、今回のアンケート、反省を含めて、協力させて頂けてよかったと思います。これからも不真面目ながらも、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。

・何故かしら敷居が高くて馴染みにくいです。それと情報が大層で、現実味がないように思うことが多いです。なかなかピンポイント情報を得る機会がなく、漠然としていますので、もう少し身近な（現実を知れる）話題があればと思います。

・メールにフィルターがかからない点で、心の広い会だなあ～と思う反面、間違いメールや、ABAと関係ないメールも多いのはどうかと思う。不真面目（本人）な会員にとっては、研修他、敷居が高く参加しづらい。

・代表が倒れたら成り立たないのでは・・・心配。

・ビデオの貸し出しをお願いしたけれど、連絡が来なかったり、質問の回答がやや遅く感じますが、不快に思うほどではありません。

・インターネットなどの検索でようやくつみきの会が出てきて、ABAのことについて知ったところがあり、もう少し早く知りたかったという思いがあります。お金の面で無理だったりするのも知れませんが、教本など、一般の出版社から出して、普通のお店にあったり、または医歯薬系の出版社から出して、病院などの本屋さんにおいたりすると、もっとABAを早くから知り、取り組める人が増えるのではないかと、思います。幼児教育の七田とか公文などと一緒で、あまり堅苦しく考えず、一般の子どもにも応用できるものなので、もっとABAが一般的に知られるようになれば、とも思います。

< 継続会員：中断群（非挫折） >

継続会員のうち、すでにセラピーを中断されていて、その理由が「非挫折群」に分類される方々の意見をすべてご紹介します。ただし長文のものは（後略）として後半を省略しています。

・療育に対する考え方が、ABAに偏りすぎているような気も？他の療育法に対しても、柔軟に良いトコ取りできる雰囲気があれば・・・と思うことはあります。

・パスワードが変わったときに連絡がこない。メーリングリストが見られない。他の方のいろんな情報が知りたいが、初めから（入会時以来）パソコンに何も入ってきません。こちらの操作が間違っている

のでしょうか。(編注：この件は事務局から連絡を差し上げ、MLに登録しなおすことで解決しました)

- ・問題点とは呼べないが、相談会などに行くにも遠いので、近くにあれぱと思います。
- ・会合をもっと子どもの段階に合わせて行ってほしい。出席しても得るものがあまりなく終わってしまうこともありました。
- ・定例会参加のお子さんが2才代の方が多いので、まもなく6才になる子どもを連れて参加しづらくなってきています。年長向けの定例会は高学年向けの内容なので、参加には少し早く思うため、はざまの年齢で取り残されている気分も少しあります。もう少し狭い地域での会員のやりとりができればいいなと思います。
- ・会報などがあればうれしいですね。メールで確認を逃してしまうことも・・・。
- ・子どもの障害の程度にもよるとは思いますが、セラピーを笑顔で楽しくできると、より伸びるような気がします。
- ・高機能向けのつみきBOOKがほしい。
- ・他の方に勧めても、初年度の金額を聞いて、たいていしり込みされます。勿論、会の運営、スタッフの手当、交通費などで、お金が必要なことは十分承知しています。しかしお金がネックでABAが広まりきっていないのは、切ないです。(後略)
- ・これだけの色々なノウハウがあるなら、セラピストを紹介する方にも力を入れて頂けるともっといいと思う。

< 継続会員：継続群 >

継続会員のうち、現在もセラピーを継続している人たちの声の一部を紹介します。

- ・やっぱりサポートが十分受けられず、挫折する人がいること。各支部ごとくらいに、定期的に会ってプログラムを考えてくれるようなセラピスト(親でもよい)が配置できたらな~と思います。(有料でもOK)
- ・セラピストの紹介、支部を増やしてほしい。
- ・入会して短期間ですので、発足当時の歴史については承知しておりませんが、MLを見ていますと、入会直後の方が圧倒的に多く、色々経験された方の情報が非常に少ないように思われます。経験をされた方の知見が少しでも会員に伝わるような工夫が必要かと思います。願わくばABAの情報を4年前に知っていれば、と思う今日この頃です。
- ・広報活動
- ・支部のない地域に住む会員には辛い。情報がありすぎて、今自分の子どもに何をしたらよいか、わからない期間が長かった。
- ・物欲がなく、食べ物ではつれない。終わってからTVなど決めても、気がそれていて集中しないので、本人のやる気がある時(だいたい時間は決めている)にしている。これでは療育にならないのかな。
- ・週何十時間、療育に費やすのは難しい。もっとハードルを下げて、取っつきやすくしてほしい。
- ・メーリングリストの検索がうまくヒットしない(HPももうちょっと整理した方がいいのでは)。セラピストの情報を増やしてほしい。

以上です。最後まで目を通して頂いてありがとうございました。このアンケート集計結果を参考にして、会の運営を改善していきたいと思います。